秋葉バス新聞

2年生

秋葉バスの歴史

1996年4月、静岡鉄道から独立して秋葉バスが設立され、10月から運行を開始しました。袋井・春野間を移動する人たちのためでした。2012年には1年間の乗降者数は124,008人でしたが、2022年4月～2023年3月の乗降者数は85,504人と、減少傾向にあります。袋井と春野を繋げた理由は、江戸時代に火伏せの神秋葉山への表参道として『秋葉街道』と呼ばれ、多くの道者が行き交う『信仰の道』でもあり、秋葉常夜灯や道標などに今もその面影を伝えていると言われています。

春野校舎の高校生が通学に使っている路線は、昔は春野線といいましたが、今は秋葉線と名称変更されています。1999年には、春野校舎に向かわない時間帯があったり、料金は今と違い約1300円と高かったり、高校生の負担になるため、先生たちが営業所の人と話し合い、料金が引き下げられたこともありました。

秋葉線は袋井～山梨～森～ふれあい公園～気多で運行されており、春野校舎内に乗り入れていたこともあります。乗降者数の多いバス停は袋井駅～山梨間で、通勤、通学、通院での利用が多いです。路線は、家が多いところ、人が住んでいるところを通るように変更されることもあります。現在の運行は平日1日8往復、休日4往復。なお、2005年は平日10往復、休日7往復していました。

運転手さんにインタビュー

インタビューを通して、運転手さんたちがどのような理由でバスの運転手になったのかをよく知ることができました。ある運転手さんからは「お客さんとの会話」、「バスが好きだから」の2つだということを聞きました。

まず1つ目の「お客さんとの会話」については、人とのコミュニケーションを好んでいる人のみならず、いろんな人との親睦を深められるので、そういった取り組みを繰り返していくことで、お互い気持ちの良い一日を過ごせるのだと思います。他にも、日々働きながら初対面の人に対しても会話をしていくことで、地元住民の方々とも仲良くなっていく事ができるという考えを持たれているからだと思います。

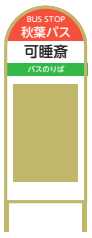
次に2つ目の「バスが好きだから」とは、例えば、運転手さんの趣味や、大型車にロマンを寄せていたりするからだと思います。実際に、バスの中で拝見した際には、運転手さんは常に楽しそうに見えました。このように楽しそうにいられるのも、バスが好きだからということがあるからだと思います。

バスにラッピング!?

ラッピングバスとは、専用の大きなフィルムで車を丸ごとラッピングしたバスのこと。フィルムは貼って剥がせるため簡単にカラーチェンジができ、複雑なイラストなども印刷できることが特徴です。

1年間の掲載にかかる料金の相場はバスだと約100万円。様々な車種で施工が可能で、秋葉バスもオーダーメイドでカスタマイズができます。そして、ラッピングした車両は一部資金が企業に入ります。

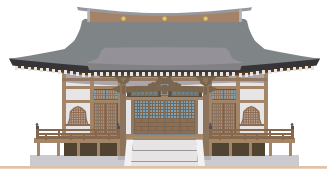
ラッピングの耐久性はおよそ1～3年といわれています。ちなみに、走行する場所にもよりますが、バスの寿命は20～25年（秋葉バスは25年から最長で31年）だそうです。



バス路線上の観光スポット“可睡斎”

秋葉バス路線には多くの観光スポットがありますが、ここでは遠州三山の一つとして親しまれている可睡斎をとりあげます。広い境内には25棟の建造物や季節に応じ咲く5万本の花など見どころも多く、季節によって変化する自然のイルミネーションが多くの観光客たちを魅了してきました。

四季の魅力的な行事にも多くの人が訪れます。「ひなまつり」ではおよそ1,200体のお雛様が飾られ、「日本最大級」の称号と共に、人々の目に焼きつくと思います。夏には「風鈴の小道」が作られます。約2,000個の華やかな色をした江戸風鈴が輝き、短冊が風に揺らされ奏でるチリンという音だけで涼しく感じられます。驚いたことにこの風鈴すべてが手作りです。「風鈴の小道」は他にも油山寺と法多山で開催しています。



こうした魅力があって、可睡斎は素晴らしいと思います。

秋葉バスサービス株式会社様のご協力により、森町の本社営業所にて取材させていただきました。お忙しい中、ありがとうございました。
文責はすべて天竜高校春野校舎にあります。発行2024年1月